



付けましたか？
住宅用火災報知器

全ての**寝室**と**階段**（2階に寝室がある場合）に必要です。
正しい場所に設置されているか確認してください。

住宅防火

いのちを守る 7つのポイント

3つの習慣

1. 寝たばこは絶対にしない。
2. ストープは燃えやすいものから離れた位置で使用する。
3. ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

1. 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
2. 寝具や衣類からの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
3. 火が小さいうちに消すために、住宅用消火器を備える。
4. お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制を作る。

火災から命を守る 住宅防火診断

「住宅防火診断」は、毎年11月～翌年3月の期間、80歳以上の高齢者で一人暮らしの人を対象に、消防職員が訪問します。その際、住宅火災を防止するための身の回りの点検を

行い、防火や防災に関する指導をします。火災は、ふとした気の緩みや不注意から発生し、大切な財産だけでなく、場合によっては尊い命も奪うことがあります。火災を防ぐには、日頃から火災を発生させない環境づくりが大切です。

消防だより

有田川町消防本部 ☎52・5950
吉備金屋消防署 ☎52・5950
清水消防署 ☎25・1243
病院紹介(和歌山県救急医療情報センター) ☎073・426・1199

火災救助 11件
救急救助 910件
平成29年8月31日現在
20件

今年の出動など(累計)

高齢者の入浴時には

涼しくなってくるこれからの季節…。入浴は全身を温め、1日の疲れを癒し、心身をリフレッシュするには最適の方法です。しかし、高齢者の入浴時には、少し注意が必要です。

入浴中の事故

意識障害

急な高温浴は、血管が拡張し、脳への血液量が減少することで脳が酸欠状態となり、意識障害を起します。

脳梗塞・心筋梗塞

高温浴の長時間の入浴は、発汗による体内の血液量が減少し、脱水症状が進みます。すると血液がドロドロになり、脳梗塞や心筋梗塞などの病気を誘発させてしまいます。



脳出血

冬は脱衣所が寒くなるため、暑い浴室に入るときは注意が必要です。



少しの気温の変化でも、急激に血圧が上昇するため身体への負担が大きくなります。血圧の急激な上昇は、脳出血のリスクを高めます。

入浴時の対策・注意点

- ・脱衣所と浴室の温度差をなくす。
- ・安全を考え、温度は38～40℃に設定し、入浴時間は10分以内とする。
- ・高血圧症や心肺の疾患を持っている人は、肩まで湯船に浸からず、みぞおちまで浸かるようにし、うっすら汗ばんでくるまで入浴する。
- ・食後や深夜の入浴は避ける。
- ・足元が滑りやすく不安定になるため、手すりや滑り止めマットを利用する。
- ・汗をかくため、水などコップ1杯程度の水分補給を行う。

本当に必要？ 適正利用にご協力を！

